

子どもたちの憧れに —フォレスターの恩送り



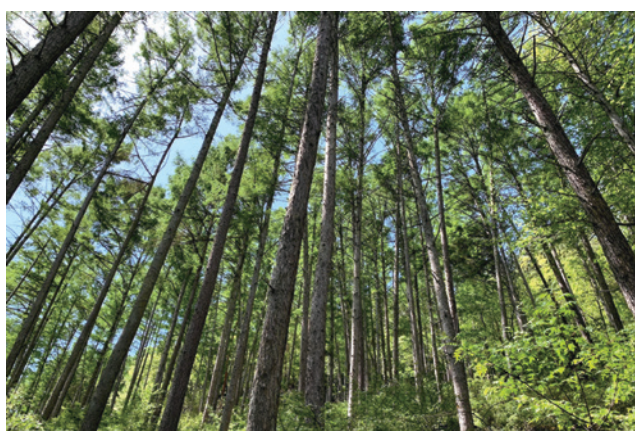
日本版フォレスターを子どもたちの憧れの仕事に

私は長野県林業大学校を卒業し、地元森林組合でプランナーとして11年ほど勤務したのち、現職場に移り、フォレスターとして活動しています。2023年に森林総合監理士の資格を取得しました。

フォレスターになった動機は、二つあります。一つ目はフォレスターを子どもたちの憧れの職業にしたいというものです。表題で敢えて「日本版」としたのはドイツや北欧諸国と比較することです。それらの国では、森林は生活と密接につながっており、それに関わるフォレスターは社会的信頼と地位が高く、憧れられる専門職だと聞いています。日本の現状では残念ながら子どもたちにフォレスターだと伝えてもピンとこないかもしれません。子どもたちに認知されるくらい、森林林業が身近な存在になるように活動をしたいと考えています。二つ目は、やるからには業界のプロフェッショナルになりたいというものです。フォレスターとして、関係各所の情報や人脈を

持つことで、困りがあれば頼ってもらえるような地域林業の核になりたいと考えています。

未熟なフォレスターですが、後述の展望を持つて活動に励み、林業関係者の地位向上と森林への興味関心や感謝の心を普及していきます。



成熟したカラマツ林



民間フォレスターの視点を林務行政に落とし込む

林務行政は民間と行政の連携が大切です。民間のフォレスターは全体の約8%しかいないため、我々が現場の意見を上げることが重要です。



主伐後のカラマツ林

私が活動する長野県では、成熟した森林資源の活用と再造林がテーマになっています。

主伐・再造林の機運が高まる一方で、森林の育成段階に行う間伐は縮小傾向にあります。このような状況を加味して、森林資源のより適切な更新に向けて、森林経営計



再造林後のカラマツ林

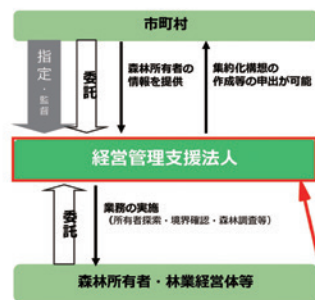
株式会社 小山林産 林業部
部長 北川 聖司



市町村の事務負担の軽減（経営管理支援法人の指定制度の創設）

市町村が専門的知見・ノウハウをもつ法人（経営管理支援法人）を指定し、そのサポートを受けられる仕組みを作ります。（指定するかしないかは任意。また、複数の法人を指定可能。）

■ 制度のイメージ



■ 経営管理支援法人の対象

- ・ 都道府県や複数の市町村が共同で設置している公益法人等
- ・ 森林の集積・集約化に専門的知見を有する森林組合連合会等の林業団体
- ・ ICT技術を活かして林業のスマート化に取り組んでいる企業 等

■ 市町村の制度運用を支援する取組の例

- 公益社団法人とちぎ環境・みどり推進機構（栃木県）
 - ・ 森林情報収集、境界確認、林分調査、路線図形調査、地籍図の検討等、市町の技術的な業務を支援。
- 一般社団法人やましごと工務所（徳島県美馬市・つるぎ町など）
 - ・ 森林経営管理方針の検討、意向調査、境界確認、集積計画・配分計画作成、市町森林経営管理事業の監理等の市町村の業務を補助。



出典：森林経営管理法等の一部改正に係る説明会 資料抜粋

この部分等でフォレスターとしての活動を模索

18

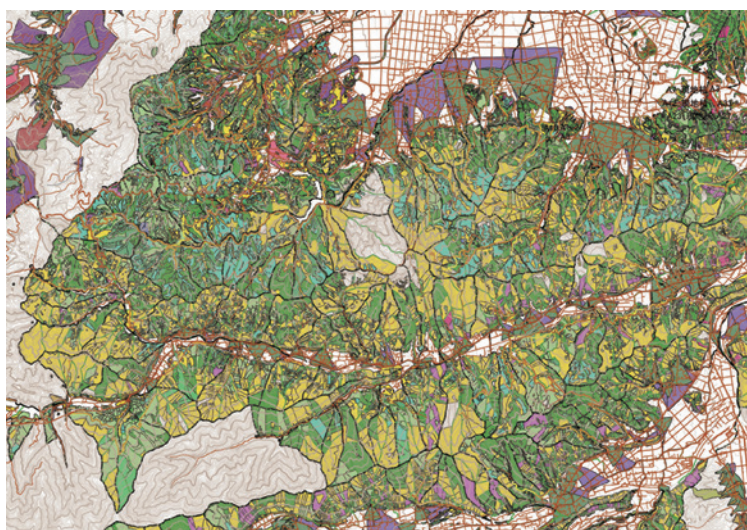
私が活動している近隣の市町村ではフォ

課題 フォレスター活用されていますか？

画の認定要件に主伐・再造林面積を加えることを期待しています。

林業事業体のプランナーの視点があるからこそ、フォレスターとして現行の制度によりよい提案ができると思っています。持続可能な森林資源の活用を前提に、制度と現状にミスマッチがあれば、それを議論し、時代に合わせた運用に向けて現場の声を届けていきたいと考えています。

レスターの活用がほとんどできていません。フォレスターの活用が進んで行くには、例えば、森林経営管理法の新たな仕組みで、フォレスターが在籍する法人を支援法人にし、制度を円滑に活用することや、林業・木材産業を巻き込み、木材の安定供給をするための公有林を含めた森林整備計画の作成などの役割を担うことなども一案と考えます。行政・林業界・地元をつなぐ橋渡し役として、気軽に活用できる体制が整えばフォレスターとしての働き甲斐があります。



22世紀に向けた森林ゾーニング

今後の活動 22世紀に向けた森林ゾーニング

戦後から22世紀への中間地点が今です。この時代に、次世代に向けた森林ゾーニングをしておくことは必要不可欠です。後世に「あの時にしっかりと林業を造り込んでくれてありがとう」と言ってもらえるよう、この時代のベストを尽くす必要があります。

その一環で、私の住む上田市では「22世紀に向けた森林ゾーニング（仮称）」を策定する計画が始まります。県、林業普及指導員、市・民間のフォレスターが次回更新の市町村森林整備計画の策定のために知恵を出し合っています。GIS技術やこれまでの経験をもとに、これからの森林や木材を取り巻く環境の変化や多発する自然災害への備えなどを考慮し、22世紀に向けた多様な森林づくりを目標にします。

森林の更新を図っていくこの時代に、次の世代にどんな森林を残していくべきかを考え、行動に移すことが今の世代の責任です。

最後に ペイフォワード

この言葉は、自分が受けた恩を他の誰かに渡し、善意を広げる考えや行動のことを意味します。まさに林業にピッタリの用語です。今、緑豊かな森林で仕事が出来ているのは、先代の活動の賜物。この受けた恩をしっかりと後世につないでいけるよう「ペイフォワード」を合言葉に、フォレスター活動を通して林業に貢献したいと思っています。

